

2009年3月期 中間決算説明会

成田国際空港株式会社



おかげさまで開港30周年

NARITAの躍動が **DYNAMIC**
この国の鼓動になる **FUTURE**

30th anniversary
NARITA INTERNATIONAL AIRPORT

【説明者】代表取締役社長 森中 小三郎

→ **経営概況及び今後の取り組み** P 3～

【説明者】常務取締役 富澤 哲也

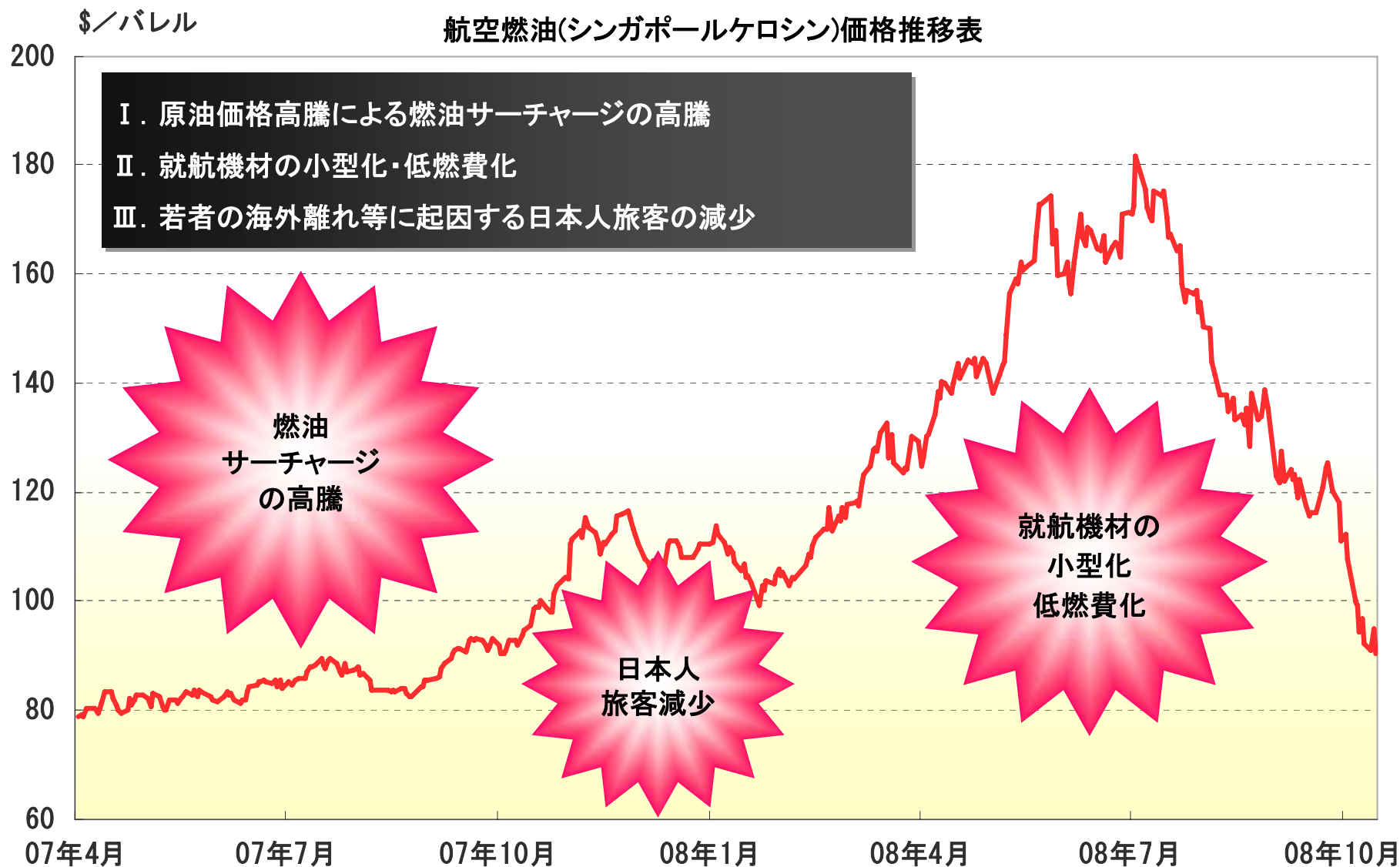
→ **2009年3月期・中間決算概要** P12～

【説明者】常務取締役 富澤 哲也

→ **2009年3月期・通期業績見通し** P20～

→ **その他・参考資料** P25～

成田空港を取り巻く経営環境



航空取扱量の推移（成田空港運用状況）



航空機発着回数・航空旅客数・航空貨物量・給油量の状況

（単位未満 四捨五入）

	2007.9 [A]	2008.9 [B]	% [B/A]	2008.3 [参考]
航空機発着回数（万回）	9.7	9.7	100.1%	19.4
国際線	9.0	9.1	100.1%	18.1
国内線	0.7	0.7	100.5%	1.3
航空旅客数（万人）	1,799	1,695	94.2%	3,539
国際線	1,737	1,638	94.3%	3,416
（国際線日本人旅客）	(958)	(875)	(91.4%)	(1,878)
（国際線外国人旅客）	(466)	(461)	(98.9%)	(928)
（国際線通過旅客）	(313)	(302)	(96.5%)	(610)
国内線	63	57	91.5%	123
航空貨物量（万t）	109	106	96.8%	222
給油量（万kl）	283	269	95.2%	562

中間決算の概要(連結)



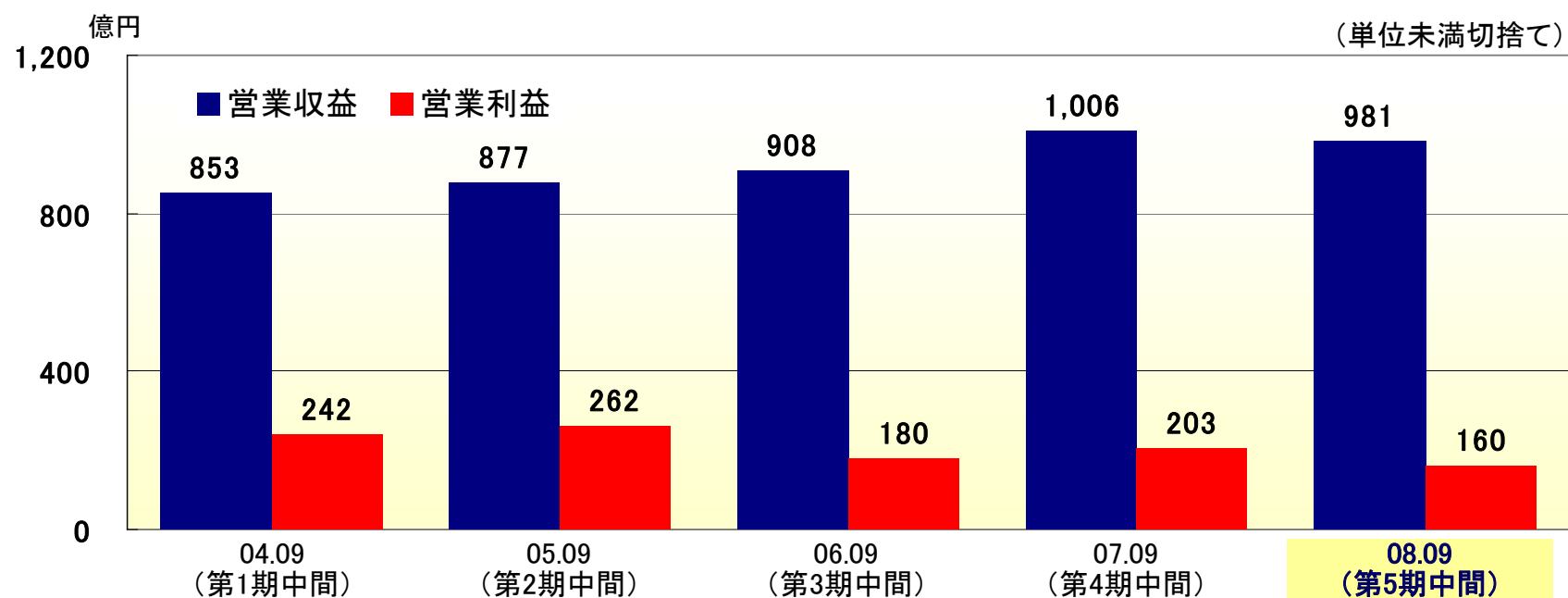
(単位未満切捨て)

営業収益 **981** 億円 (前年同期比 **24** 億円の減)

営業利益 **160** 億円 (同 **43** 億円の減)

経常利益 **115** 億円 (同 **41** 億円の減)

中間純利益 **55** 億円 (同 **21** 億円の減) で減収減益



通期業績見通し(連結)



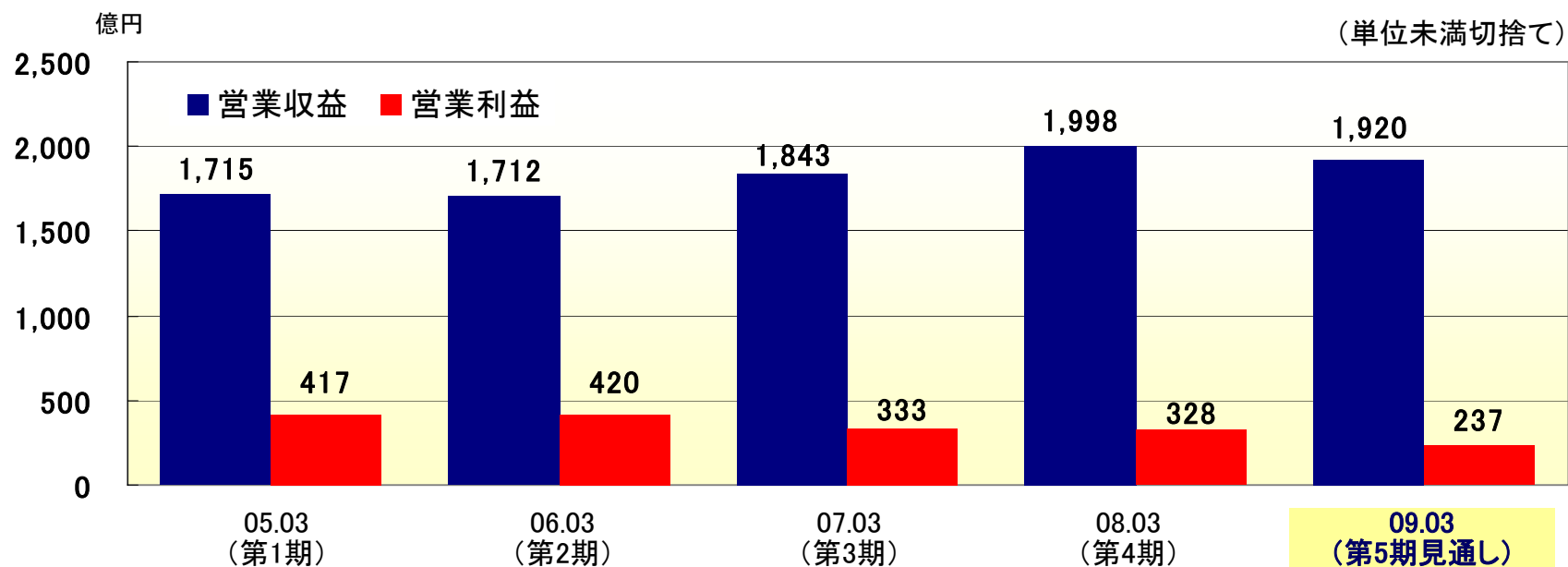
(単位未満切捨て)

営業収益 **1,920** 億円 (当初計画比 49億円の減)

営業利益 **237** 億円 (同 44億円の減)

経常利益 **145** 億円 (同 38億円の減)

当期純利益 **61** 億円 (同 24億円の減) で業績下方修正



平行滑走路の北伸整備状況



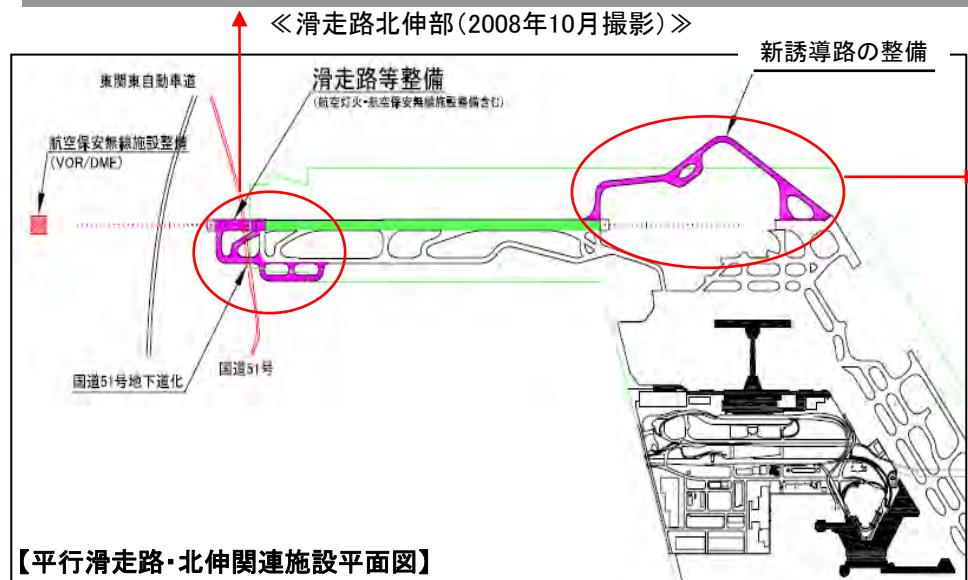
【2008年9月末時点・工事進捗状況】

- 滑走路北伸整備工事は、6月に国道51号切替工事が完了、現在、延伸部及び東側誘導路部の舗装工事等を実施中
- 供用後は、発着回数の拡大、就航可能距離の拡大、大型機の就航が可能

《東側誘導路部(2008年10月撮影)》



《滑走路北伸部(2008年10月撮影)》



【平行滑走路・北伸関連施設平面図】

成田新高速鉄道の整備状況

- 2010年度の早期開業を目指し整備中
- 当該事業に係る用地問題は全て解決
- 現在、鋭意工事を実施中

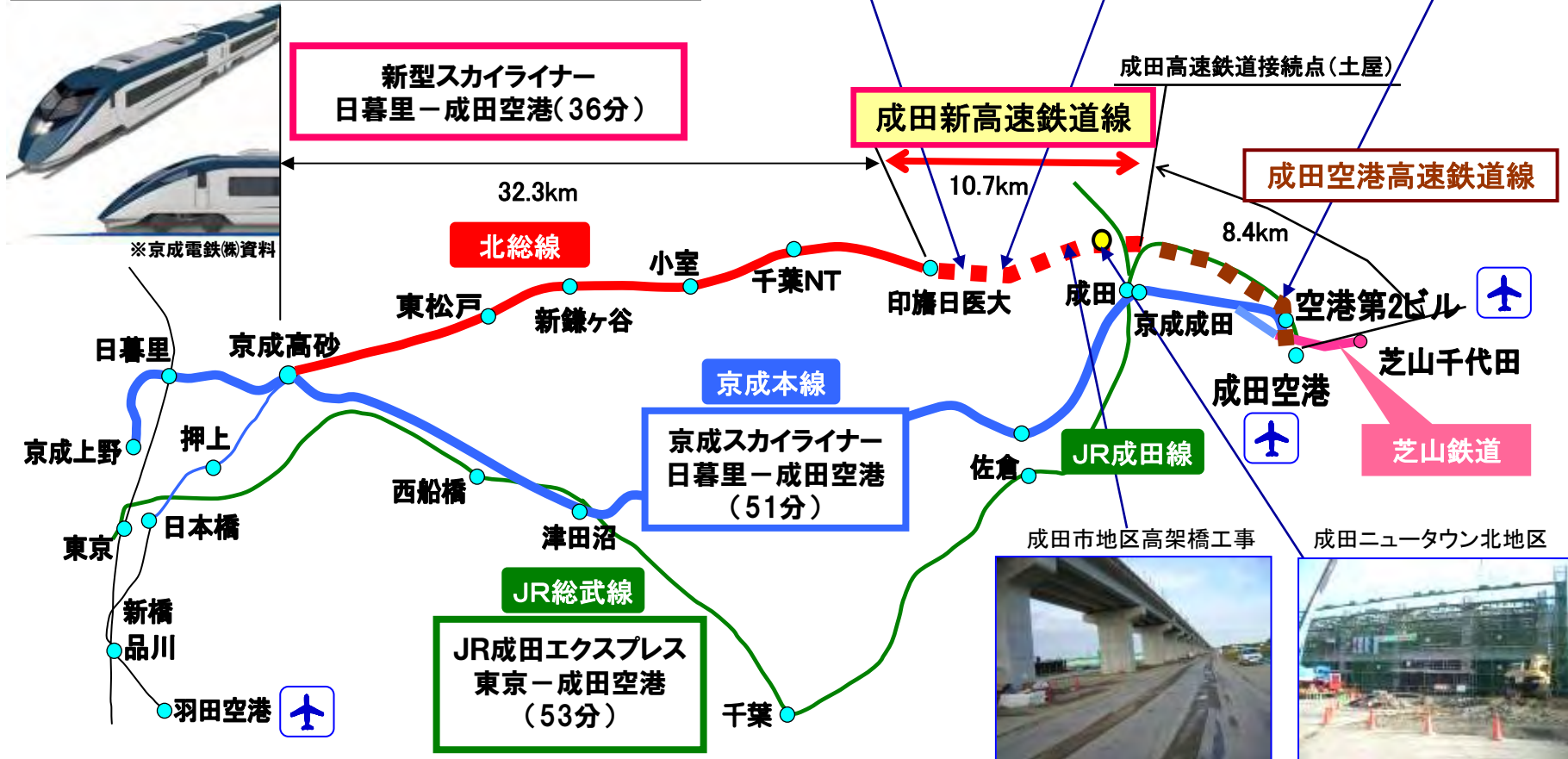
印旛村地区高架橋工事



印旛沼橋りょう下部工事



空港第2ビル内増築工事



出発ロビーの改修

■第1旅客ターミナルビル

- 100%EDS(爆発物検知装置)によるインラインスクリーニング方式の導入
- 北ウイング出発ロビーのリニューアル
 - セキュリティーフェンスの撤去
 - 各カウンターにBIDS(液晶表示案内板)を設置

■第2旅客ターミナルビル

- 100%EDSによるインラインスクリーニング方式の導入
- 出発ロビーのリニューアル
 - セキュリティーフェンスの撤去
 - チェックインアイランドのカウンター・天蓋を一新し各カウンターにBIDS(液晶表示案内板)を設置
 - ロビー内のサービス施設を再配置転換

第2旅客ターミナルビル



内際乗継施設の整備

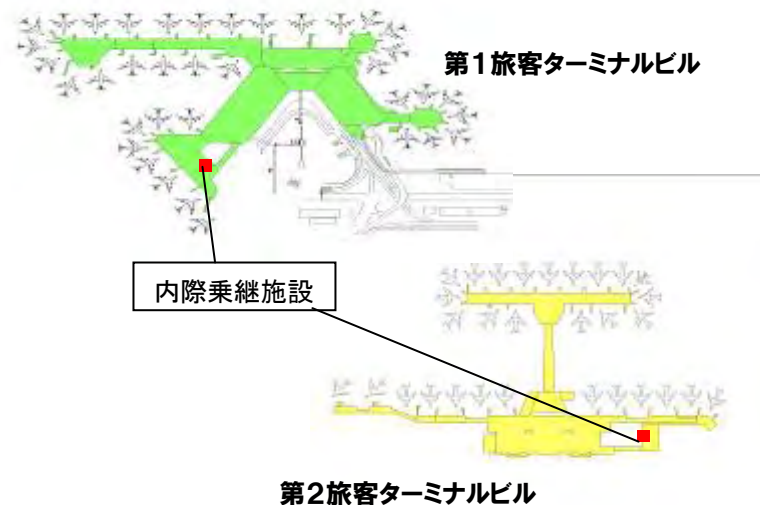
- 国内線で到着されたお客様が短時間で国際線へ乗り継ぐ際の施設(ハイジャック検査場、出国審査場)を整備
- 国内線到着ロビーを出た後、隣接したこれら施設を通過し、国際線の出発ゲートへアクセスすることで、従来の国際線出発ロビー経由で乗り継ぐ場合に比べ、移動距離及び移動時間を大幅に短縮(※)することが可能

※第1ビル国内線より国際線56番ゲートへ乗り継ぐ場合

→従来の動線720m から180m に短縮

※第2ビル国内線より国際線63番ゲートへ乗り継ぐ場合

→従来の動線980m から150m に短縮



株式上場までの流れ



空港インフラへの規制のあり方に関する研究会

- 内閣官房長官及び国土交通大臣の下に設置
- 投資環境整備及び我が国の安全保障の観点から、空港インフラへの規制のあり方に関する基本方策を検討
- 年内に結論をとりまとめ予定

NAAの対応状況

- ◆ 第2回研究会(9月8日開催)にて、NAA等へのヒアリング実施
- ◆ NAAからは「高度な公共性を有する社会インフラとして、最小限の規制を設けることはやむを得ないが、その一方で、自主的・効率的な経営が可能となるよう、バランスのとれた制度設計をお願いしたい。」旨、発言



経済好転による需要増加

空港容量拡大

DYNAMIC FUTURE
30th anniversary
NARITA INTERNATIONAL AIRPORT
NARITAの躍動がこの国の鼓動になる

バランスのとれた経営